

# コゴミの翼葉を少なくする栽培技術

林業試験場

## [研究のねらい]

山間地に適した新規山菜類としてコゴミの栽培が普及されつつありますが、露地栽培では東北産に比べ翼葉が多く発生することから、市場の評価も低く、これを少なくする栽培技術が課題でした。

そこで、被覆資材を用いた遮光条件の違いが翼葉の発生に及ぼす影響を把握するとともに、効果的な遮光方法について検討しました。

## [研究の成果]

- ①市場が求める品質を得るためには、若芽が発生する直前に被覆資材で遮光し、遮光率 99%以上の光環境下で発生させる必要があります、それ以下では効果が少ないことを確認しました(表1、図1)。
- ②遮光資材では、「もみ殻被覆」で翼葉の減少に加え軸の太さや重量も増加するなど効果が高かったものの、若芽の発色がやや劣る傾向が見られました。
- ③遮光ネットによる被覆では、「ベタ掛け」、「トンネル掛け」ともに翼葉を少なくするためには有効な方法がありますが、「ベタ掛け」は、軸の太さや重量も増加し「もみ殻被覆」と同様な効果が認められ、省力で効果的な方法です(表2、図2)。

## [成果の活用面・留意点]

- ①99%以上の遮光率を確保するには、遮光率表示 90%程度の遮光ネットの二重掛け被覆が必要です。
- ②被覆資材は若芽が発生する直前に被覆し、収穫が終われば撤去する必要があります。
- ③「トンネル掛け」は、手間が掛かかりますが、風雨により若芽が曲がったり傷付くなどの影響が少ない被覆方法です。

表1 遮光率の違いによるコゴミ翼葉の形状 (2011年4月8日～19日)

試験区	被覆素材	遮光率 実測値(%)	翼葉数 (対)	軸太さ (mm)	重量 (g)
A	無処理	0.0%	18.1 ± 2.2	6.0 ± 0.3	5.1 ± 0.5
B	ダイオシート 8号(60~65%)	83.3%	11.8 ± 0.0	6.7 ± 0.8	5.5 ± 0.8
C	ダイオシート10号(70~75%)	94.2%	10.8 ± 1.3	6.6 ± 0.8	5.5 ± 1.2
D	ダイオシート14号(90~95%)	97.3%	12.7 ± 1.7	6.0 ± 1.0	4.8 ± 0.8
E	ダイオシート14号×2重張り	99.9%	9.5 ± 0.5	6.7 ± 0.6	5.0 ± 0.7
F	もみ殻被覆(15cm厚)	100.0%	5.8 ± 1.0	7.7 ± 0.6	7.2 ± 1.1

※各試験区の供試株数は5株とし、発生したコゴミ若芽の1番芽のみを長さ13cmで収穫した。  
※1株当たりの収穫本数:7.9本/株

表2 遮光ネットの被覆方法の違いによる形状(2011年4月11日～18日)

試験区	被覆方法	遮光率 実測値 (%)	翼葉数 (対)	軸太さ (mm)	重量 (g)
G	無処理	0.0	a**	b**	b**
H	トンネル掛け	99.2	b**	b**	b**
I	ベタ掛け	99.6	b**	a**	a**
			15.2 ± 1.6	5.3 ± 0.3	4.2 ± 2.2
			9.2 ± 1.1	6.8 ± 0.4	4.7 ± 0.3
			8.9 ± 0.6	8.0 ± 0.7	6.3 ± 0.7

※同列異符号間で有意差あり (\*\*:1%水準で有意 \* :5%水準で有意)

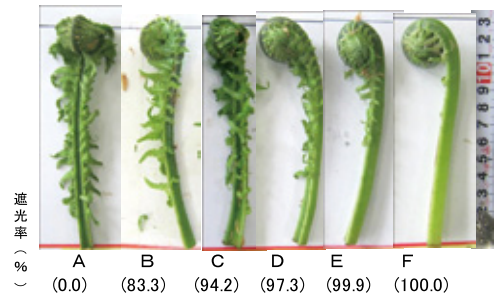


図1 遮光率・被覆方法の違いによるコゴミ翼葉の形状



図2 ベタ掛けの状況

(問い合わせ先 0739-47-2468)